
春風千桜！inゲーセン!!

dandy

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春風千桜！inゲーセン！！

【Nコード】

N1635L

【作者名】

dandy

【あらすじ】

本当は「ハヤテのごとく！！」Combat Butler Story」275話前後に挿入するつもりでした…

（前書き）

あらすじの解説

いやあぶっちゃけ本編のつもりで書いてたら「なんかあんま流れに乗ってないな」と感じこーなっちゃいました。ま…いつも流れなんかないんですけど。思うのは…6分前後の話を作る方が向いてるかもしれないですね。長編はなんか…途中から意図のわからない話が多々ありますからね。くう

で、肝心の内容は…まあ駄作だけど消すのは惜しかったのです。s a i k y o l i n e の中で満員電車でもみくちゃにされながら書き35分を要しました。35分で6分しか書けない効率の悪さ。だがしかーし！作品の良さは時間と比例しないことを証明…でき…たら……竜頭蛇尾

彼女はストレスを溜めに溜めまくっていた。学校では規律を重んじ学院内を取り仕切る生徒会役員。かたや弾ける笑顔でお客を魅了するメイドさん。真逆の性格を操る彼女 春風千桜。無理はしていない。どちらもあるべき彼女の姿。そんな彼女を苦しめるのは誰にも知られたくないという秘密主義。油断すれば正体がばれかねない。

（我ながらなんと不自由な性格なんだろう…）

千桜は帰宅途中だった。だがまっすぐ家には帰らない。溜めたストレスを発散するため彼女は行きつけのゲームセンターに寄ったのだ。この日も理事長キリカに散々振り回され混乱する生徒を落ち着かせることから1日が始まったのだからストレスも溜まるだろう。早速シューティングゲームをやるためコインを入れた。

ゲームを始めてから何分か経った後千桜は諦めた。調子が悪くスコアが伸ばせない。

（今日は厄日だな…）

ただただ疲れた。さらに追い討ちをかけるかのように財布の口がわずかに開いていたようで100円玉が一枚落ちた。コロコロ転がりゲーム台の下に吸い込まれた。千桜のテンションはいよいよ最悪に。

（…死のう）

本当に死ぬわけではない。だがたった一枚の100円玉のために誰か

呼ぶのも情けないと思い100円のこと忘れようとした。

（チャリティーだ。チャリティー！。もしくは小さな幸せを私は与えたんだ。あのゲーム台が撤去される時に下から100円が見つければ嬉しいじゃないか）

こうでも思わなければ自我を保てなかった。だがこのままみすみす帰るわけにはいかない。

（いくらなんでもこんな気分のまま帰るわけには！）

半ば自棄になっていた。札を両替しゲームに挑む。どれも何かを得られるゲームではない。千桜は戦った。ハイスコアという見えざる敵と。

だが惨敗を極めた。どのゲームをやっても勝てない。勝てないからだちがさらに千桜を自棄にさせそれがさらに敗けを誘発する。負のスパイラルは止まらない。誰か他にいれば歯止めも効くが止めるのは千桜自身。さすがに破産するのはよくないと思いゲーセン前の自販機でジュースを買い隣のベンチに座った。

（ついてない…。いや、なんか憑いてるな。霊的なものが）

千桜はジュースを飲み終わったら帰ろうと決めた。いつまでもここにいては次こそはという期待をしてしまうのでは思ったからだ。しかも破産寸前。だが千桜にとって今日は本当に厄日だったのかもしれない。

「あら、千桜さんじゃありませんか」

「あ…愛歌さん？」

たまたま今日に限ってゲーセンのある道を通った愛歌がやって来た。本当にたまたま。たまたま千桜が休んでいた時間帯に通りがかったのだ。

「愛歌さん。どうしてここに？」

「いえ…たいした理由はないのですけど…。あもしかしてゲームですか？」

愛歌はゲーセンの存在に気付きさらに

「たまにはこういうのもいいかもしれませんね。千桜さん。ちょっとやっていきませんか？」

「ゴホッ！」

ジューズが変な器官に入り千桜は噎せた。千桜は焦る。もうそんな金はない。しかし

「今日はゲーセンで破産しそうなので遠慮します」

とは言えなかった。ゲーセン自体普段の千桜のイメージではないし破産寸前など知れたら愛歌に何を言われるかわからない。

（あくまで…あくまで生徒会書記春風千桜としてのイメージを…）

結局千桜は

「いいですよ。付き合います」

と返事をしてしまった。

「そうですか。じゃあ行きましょ」

意気揚々と愛歌がゲーセンに入る中千桜は 言ってしまった と頭が痛くなる。

しかし神様の悪戯か千桜は別人のようにゲームに興じた。さっきまで何をやってもダメだったが信じられないくらい調子がいいのだ。隣で見ていた愛歌も思わず感心した。

「すごいですな千桜さん。まるで熟練者の域じゃないですか」

「ええ…まあ」

千桜は苦笑する。実際熟練者なのだが今まで以上にうまくいったため気味が悪かった。

「しかし愛歌さんはやらないんですか？」

「私はダメね。1回やったけど…千桜さんのを見ているほうが楽しいです」

それでは困る。千桜は思った。なんせなけなしの金を使っているのだから。かといってようやくエンジンがかかってきたのにやめるのはもったいなかった。

「愛歌さん…世の中ってうまくできてますね」

「え？なんですか？」

「いえ、なんでも。こっちの話です」

シューティングゲームを終え千桜は銃を元の場所に戻した。いつの間にかゲーセンに来てから1時間弱経っていた。愛歌が来てからは10分程だが。

「帰ります？愛歌さん」

「えっ？もういいんですか？」

「私ばかりやるのも悪いので」

「千桜さんがそう言うなら止めませんけど…」

千桜はようやく帰れると解放感に包まれた。財布の中はほぼ空っぽ。本当のことを言えばよかったのかも後悔もしていた。

（ゲームで溜めたストレスを発散できたのはよかったけど…ゲームで溜めたストレスはゲームでしか発散できないということだろうか…）

空っぽの財布を見て千桜は思った。じつと財布を見つめる千桜を愛歌は不思議そうに見ている。

「どうしました？」

「いえ…」

「もしかしてお金がもう底を尽きそうだったけど私に誘われたから無理にゲームをしたとか…？」

千桜は声が出なかった。完璧に心理を当てられてむしろ怖くなったのだ。

「当たり前ですね」

愛歌は笑った。その笑顔に対しても千桜は何も言葉が浮かばない。呆気にとられていると愛歌が自分の財布から100円玉を1枚千桜に差し出す。千桜は驚いた。

「なんですか愛歌さん…」

「なにつて…千桜さんにあげます」

「べ、別に気を遣わなくても…私がやりたくてやったんですから」

「でも…あの負けず嫌いの人を止めてくれるなら安いものよ」

「へ？」

愛歌は ほら と言わんばかりに指差した。その先には何の因果か頬を思いつき膨らませながらUFOキャッチャーをする生徒会長桂ヒナギクの姿があった。

「あれ…会長ですよ？」

「さっきからずーつとあの場所を占領してるみたいだし…あのままだやUFOキャッチャーが貯金箱になってしまいますから千桜さん、止めてあげてください」

「止める…？」

「そのための100円ですから」

千桜も愛歌の意図がわかったようで100円玉を受け取りヒナギクに後ろから近づく。丁度ぬいぐるみがアームから落ちヒナギクも気落ちしている時だった。

「会長」

「！？え！？ハル子に愛歌さん！？」

「ほお。UFOキャッチャーですか」

「み…見てたの？」

「まあ一部だけ愛歌さんが」

千桜はキラリと眼鏡を光らせ愛歌はひたすら笑顔。ヒナギクは一気に恥ずかしくなる。

「い…言わないでよね」

「言いませんよ。それより一体何が欲しかったんです?」

無言のままヒナギクは中にあるぬいぐるみを指差した。何を狙っていたかは各々の想像にお任せ。

「あれを?」

「ええ。だけでもいいわ。もう無理だし…」

「ちよつと失礼」

千桜はヒナギクがいた場所に立ちそしてまるで獣が獲物を襲うかの如くものすごい剣幕でぬいぐるみを見つめ台を横から見たりした。

「あの…ハル子?」

「…ではいきます」

100円を投入しボタンをプッシュ。その目はぬいぐるみただ一点のみを見ている。千桜は取れる気しかなかった。適当な場所にてアームを降ろす。

（きた!）

千桜の操作は完璧だった。面白いくらいにぬいぐるみがアームにかかり一気に運ばれ穴に落ちた。横で見ていたヒナギクは素直に喜ぶ。

「す…すごい!ありがとうハル子!」

「いえ…私だけではありません。会長と愛歌さん…二人のお陰です」

千桜は感慨深げに言う。

こういつ日も悪くない

千桜の気持ちはようやく晴れた。

（後書き）

綺麗にまとめた感80%。結局生徒会重役三人娘の話になってしま
いさらに言えば1期48話のヒナさんのイメージがずーっと頭の
中に残像として残ってしつこいくらいです

ゲーセンで破産した知人をたくさん知ってます。カードをスキャン
して戦うゲームでレアカード欲しさにみんな大金叩いてました。そ
れに私自身も…

ゲーセンはほどにやれば楽しいけど節度を守らないと破滅しま
す。酒？とりあえずゲーセン中毒にならないようみなさんもお気を
つけください

次はハルさん視点で書くのも楽しいかなあと思ってますがまあし
ばらく無理でしょう。今はGW（後から見たら季節感0だな）ゲーム
してアニメ見て本読んで課題クリアしてバイトして…あれ？これG
Wなのか？

G…外界には行かない
W…私です

読んでいただきありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1635/>

春風千桜！inゲーセン!!

2010年10月21日20時22分発行